

季刊せいてん no.124

●浄土真宗聖典の学習誌●



特集

〈名人〉たちの聖典 —存覚・從覚・円如—

真宗〈悪人〉伝／金子大榮（上） 幸せってなんだろう／信仰という幸福
『唯信鈔文意』／他力「正信偈」／源信和尚② もう1人の「親鸞」／一切経校合

No.124

季刊
せいてん

2018.9.1 (秋の号)

特集

「〈名人〉たちの聖典—存覚・従覚・円如—」

- 「従覚上人と『末灯鈔』」…………… 富島信海 3
「存覚上人と『六要鈔』」「円如上人と五帖『御文章』」
「宗主を支えた〈上人〉たち—明治・大正・昭和—」
…………… 赤井智顕・能美潤史・編集室 44

はじめの一步Ⅰ

真宗〈悪人〉伝⑬

- 金子大榮 (上) …………… 井上見淳 9

はじめの一步Ⅱ

幸せってなんだろう—悪人正機の倫理学⑦

- 信仰という幸福について—成長なき時代への提案 … 藤丸智雄 16

聖典セミナー

『唯信鈔文意』③—「自」であらわされる他力 … 安藤光慈 22

せいてん誌上講演

「正信偈」⑳ 源信和尚(2) 仏さまに背きながら … 梯 實圓 30

もう1人の「親鸞」⑦

「一切経校合」…………… 黒田義道 40

おてらカメラ (終)

「内陣を撮る」…………… 中西康雄 54

法語随想 ③

「この人を分陀利華と名づく」…………… 蓮谷啓介 56

読者のページ せいてん質問箱 **新連載**

「生苦」は「生まれる苦しみ」? …………… 岡本健資 58

人ひとみな 物語からであう③

「うまれた日」…………… 根来亮慧(ともしえ) 63

お寺はいま 視聴覚伝道研究会

法話の可能性を広げる「メディア」…………… 64

西の空 心に響くことば

大悲の風…………… 榎本栄一 67

文中写真 / 編集室

お読みななる前に…文中に(〇〇頁)とあるのは『註釈版聖典(第二版)』、(七祖〇〇頁)とあるのは『註釈版聖典 七祖篇』のページ数を指しています。

幸せってなんだろう

—悪人正機の倫理学—

第7回 「信仰という幸福について—成長なき時代への提案」

総合研究所副所長 藤丸 智雄
ふじまる とも お



倫理思想には、幸福について考えるという側面があります。アリストテレスも、善は幸福を目的とすると説きました。

今回は、幸福というポイントから功利主義について考えてみましょう。

みなさん、どんな時に幸せを感じますか？

イラスト 瓜生智子

快樂の追求を肯定する功利主義

さて、今回も功利主義こうりです。

功利主義を發明したジェレミー・ベントム（ベンサム）は、子どもの頃から英才教育を受け神童と呼ばれていました。うちの甥っ子は六歳の時「5+7=12」ができたので、「照真、すげえ、天才だ」と欣喜雀躍きんきじやくやくしたのですが、ベントムは六歳でギリシャ語とラテン語を読み、十二歳で名門オックスフォード大学へ入学したそうです、いやはや。

このような早熟かつ明晰な頭脳を持ったベントム先生。伝統的な考え方には縛られません。死刑の廃止、同性愛の合法化なんかも初めて言い出します。実に二百年前のことですから驚かされます。

しかし、なんとと言ってもベントム

の名を歴史に深く刻んだのは、功利

主義の發明によってであります。そのインパクトについては前回お話しした通りですが、少し復習しておきましょう。ベントムは「幸福ちゅうのは欲望が満たされることとんがな」と言っちゃいました。これは、人類の歴史において——善し悪しは別にして——極めて画期的なことでした。人類が生み出した倫理観は、宗教的なものも含め、概して禁欲的な性格を持つものでした。もちろん仏教も例外ではありません。

それなのに、ベントムは欲望が満たされることによって幸福になり、快樂を追求することは悪いことではないと論じたわけです。そして、この考え方（快樂主義）は、今も社会を支える基本的な考え方となっています。

欲望を満たせるようになり

快樂が肯定された

ここでいったん、ベントムが生きた時代のイギリスについて説明しておきましょう。

ベントムが亡くなった翌年、一人の作家が一本のエッセイを上梓し文壇に登場します。イギリスの国民的作家チャールズ・ディケンズ（一八二一—一八七〇）です。

ディケンズの代表作といえば『オリバー・ツイスト』『クリスマス・キャロル』。どちらも、ベントムが生きた時代のイギリスが舞台となり、貧困にあえぐ市民の姿が描かれています。オリバーは救貧院で産声うぶこえをあげ、食事も不十分のまま過酷な労働を強いられ（『オリバー・ツイスト』）、守銭奴しゆせんぬスクルージーは欲深い金貸し



ですが、精霊によって貧しくとも幸せに暮らす人びとの姿を見せられ心をあらためます（『クリスマス・キャロル』）。

快楽の追及を説いたベンタムと貧困を描いたディケンズ。一見、相反するようですが、巨大な社会変化——十八世紀から始まった「産業革命」——が両者の背景にはあります。

産業革命は現代社会への扉を開きました。蒸気機関により工業化が進み、莫大な富が生み出され経済が成長。このように、科学の発展により、それまでの時代には想像できなかった豊かな生活がもたらされます。古代や中世社会では、生産できる富の量はほとんど変化しませんでした。そのため人間の持つ限らない欲望を満たすことがそもそもできなかったのです。富の増えない成長のない時代には、

禁欲の生き方が善とされました。しかし、欲望を満たす可能性が開けた途端に、欲望を肯定的に考える思想が誕生したのです。

一方で、都市へと大量の人びとが入り込み、流入しスラム街ができ、劣悪な労働環境もあいまって十万人以上が「コレラ・パンデミック（コレラの世界的流行）」の餌食えじきになってしまいました。このように公害やパンデミックという新たな課題も生じましたが、それも科学の力によって乗り越えられると考えられたのです。

しかし、この快楽の追求を是とする考え方には、さまざまな修正が加えられていきます。その一つが、幸福の多様性による修正です。

どんな時に幸福だと感じますか？

ベンタムの「欲望を満たし快楽が増えることが幸福である」という考え方は、果たして正しいのでしょうか？この幸福に関する難問に切り込んでいく前に、皆さんにアンケートにご参加いただきましょう。とても簡単な質問なので、ぜひご参加ください。

「どんな時に幸せを感じますか？ 幸せと感ずることを五つ挙げてください」

この連載では、大学生たちへのアンケートを紹介していますが、これもその一つです。この問いは六年前に「倫理と宗教」という講義を始めた時から実施していますので、すでに二十人くらいに質問してきました。その結果は、なかなか興味深いものです。

一番多い答えは「美味しいものを

季刊 せいてん

バックナンバーのご案内 (在庫分)

100号を記念しての特別号



●表紙写真 ●燃灯仏授記図

101号の主な内容

☆ヴィジュアル大乘仏教～北伝仏教の旅～
インド・西域・中国・朝鮮半島・日本編 丘山 新

これまで表紙解説のコーナーでたどった仏教伝来の道を、新たに美しい写真とともに旅しました。インドから日本に伝わった仏教の大きな流れを知ることができます。

☆「入門講座」・「聖典セミナー」プラス

観世音・大勢至一七高僧にちなんで
「私にとつての仏教」その後
親鸞聖人へのアプローチ
その心すでにつねに浄土に居す
『観無量寿経』のころ
『尊号真像銘文』のころ
『一念多念文意』のころ

黒田覚忍
浅田正博
山田雅教
森田眞円
徳永一道
白川晴顕
内藤康

これまで「入門講座」「聖典セミナー」をご担当いただいた先生方に、あらためてお味わいをご執筆いただきました。



表紙写真
●特集
「しなやかにつなげる仏事」よ

- はじめの一步I
真宗〈悪人〉伝④(井上見淳)
「熊谷直実」
- はじめの一步II
「物語」で読み解く仏教⑩(野呂靖)
「植物と成仏 その二」
- 聖典セミナー
「歎異抄」⑥(矢田了章)
「第五条」
- せいてん誌上講演
「正信偈」⑭(梯實圓)
「曇鸞大師 (1) 大乘仏教の極致」
- 和讃で学ぶ浄土真宗⑥
「信心」(佐々木隆晃)

115号(夏の号) 2016年6月1日



表紙写真
●表紙解説「ボロボロ丸」よ

- 100号記念 勤学和上に聞く
「聖教の真実性と布教伝道について」
「聖典編纂事業と『季刊せいてん』」
(梯實圓・徳永一道・内藤康・佐々木惠梢)
- 入門講座
はじめて学ぶ お釈迦さまのご生涯⑥(内藤昭文)
「お釈迦さまの晩年とその後」
- 聖典セミナー
一枚起請文③(高田文英)
「浄土真宗の生命」
御俗姓②(佐々木隆晃)
「親鸞聖人の御遺訓」
仏説阿彌陀經⑤(満井秀城)
「証誠段・流通分」

100号(秋の号) 2012年9月1日



表紙写真
●特集「伝統とその由来」よ

- はじめの一步I
真宗〈悪人〉伝⑤(井上見淳)
「慈信房善鸞 (上)」
- はじめの一步II
「物語」で読み解く仏教⑪(野呂靖)
「一生不犯 その一」
- 聖典セミナー
「歎異抄」⑦(矢田了章)
「第六条一弟子一人もたず」
- せいてん誌上講演
「正信偈」⑮(梯實圓)
「曇鸞大師 (2) 他力のころ」
- 和讃で学ぶ浄土真宗⑦
「念仏者の利益」(佐々木隆晃)

116号(秋の号) 2016年9月1日



表紙写真
●表紙解説「チベット仏教①」よ

- はじめの一步I
親鸞聖人の人間像①(山田雅教)
「妻がつづった親鸞聖人の素顔」
- はじめの一步II
現代人と宗教①(福永俊哉)
「宗教と学問」
- 聖典セミナー
「御文章」①(高田文英)
「聖人一流章」
- せいてん誌上講演
「正信偈」①(梯實圓)
「ご恩に報いるために」
- サンカしよう
「讃仏偈」①(若林真人・山口篤子)

102号(春の号) 2013年3月1日



表紙写真

●特集「自死と念仏者」より

- はじめの一步I
真宗〈悪人〉伝⑩(井上見淳)
「顕如と教如(中)」
- はじめの一步II
幸せてなんだろう④(藤丸智雄)
「嘘は悪なのか？」
- 聖典セミナー
「歎異抄」⑫(矢田了章)
「後序—たまりたる信心」
- せいてん誌上講演
「正信偈」⑫(梯實圓)
「善導大師(3)仏様に認められて生きる」
- もう1人の親鸞④
「玉日姫と恵信尼さま」(黒田義道)

121号(冬の号)2017年12月1日



表紙写真

●特集「私の名著」より

- はじめの一步I
真宗〈悪人〉伝⑥(井上見淳)
「慈信房善鸞(下)」
- はじめの一步II
「物語」で読み解く仏教⑫(野呂靖)
「一生不犯 その二」
- 聖典セミナー
「歎異抄」⑧(矢田了章)
「第七条—念仏者は無礙の一道」
- せいてん誌上講演
「正信偈」⑫(梯實圓)
「道緯禪師(1)末法を生きる」
- 和讃で学ぶ浄土真宗⑧
「念仏者の生活」(佐々木隆見)

117号(冬の号)2016年12月1日



表紙写真

●特集「わが家で解決セルフ質問箱のすすめ」より

- はじめの一步I
真宗〈悪人〉伝⑪(井上見淳)
「顕如と教如(下)」
- はじめの一步II
幸せてなんだろう⑤(藤丸智雄)
「夜空ノムコウ」
- 聖典セミナー
「唯信鈔文意」①(安藤光慈)
「他力信心の法義」
- せいてん誌上講演
「正信偈」⑫(梯實圓)
「善導大師(4)阿弥陀仏に会う」
- もう1人の親鸞⑤
「幽霊の救い」(黒田義道)

122号(春の号)2018年3月1日



表紙写真

●特集「地獄と仏」より

- はじめの一步I
真宗〈悪人〉伝⑧(井上見淳)
「唯善(下)」
- はじめの一步II
幸せてなんだろう②(藤丸智雄)
「わかっちゃいるけど、やめられない」
- 聖典セミナー
「歎異抄」⑩(矢田了章)
「第九条—念仏申し候へども…」
- せいてん誌上講演
「正信偈」⑫(梯實圓)
「善導大師(1)浄土教を救った高僧」
- もう1人の親鸞②
「比叡山時代の夢告伝説」(黒田義道)

119号(夏の号)2017年6月1日



表紙写真

●特集「お盆、その前に」より

- はじめの一步I
真宗〈悪人〉伝⑫(井上見淳)
「弁円」
- はじめの一步II
幸せてなんだろう⑥(藤丸智雄)
「欲望は悪か」
- 聖典セミナー
「唯信鈔文意」②(安藤光慈)
「名号の摂化」
- せいてん誌上講演
「正信偈」⑫(梯實圓)
「源信和尚(1)日本浄土教の黎明」
- もう1人の親鸞⑥
「枕石の物語」(黒田義道)

123号(夏の号)2018年6月1日



表紙写真

●特集「あわてないための〈大乘非仏説〉入門」より

- はじめの一步I
真宗〈悪人〉伝⑨(井上見淳)
「顕如と教如(上)」
- はじめの一步II
幸せてなんだろう③(藤丸智雄)
「自分らしさ」
- 聖典セミナー
「歎異抄」⑪(矢田了章)
「第十条—無義をもつて義とす」
- せいてん誌上講演
「正信偈」⑫(梯實圓)
「善導大師(2)無量寿仏の名をたもて」
- もう1人の親鸞③
「伝道者としての親鸞聖人」(黒田義道)

120号(秋の号)2017年9月1日

●これまでの主な特集記事●

- No.100……100号記念 勤学和上に聞く
①聖教の真実性と布教伝道について 梯實圓
②聖典編纂事業と『季刊せいてん』
徳永一道・内藤知康・佐々木惠精
- No.102……飛雲閣と聚楽第一聚楽第の遺構か否か
- No.116……伝統とその由来
- No.117……私の名著
- No.119……地獄と仏
- No.120……あわてないための〈大乘非仏説〉入門
- No.121……自死と念仏者
- No.122……わが家で解決 セルフ質問箱のすすめ

*『季刊せいてん』誌のバックナンバーは部数に限りがありますので、品切れの場合はご容赦願います。

お申し込み・お問い合わせは

本願寺出版社

☎ 0120-464-583

FAX 075-341-7753

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル

1冊700円(税・送料込)

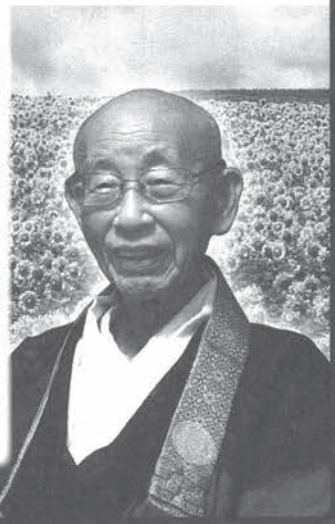
商品に払込取扱票を同梱しますので、郵便局もしくはコンビニエンスストアで料金を払い込みください。

連載 クローズアップ

《せいてん誌上講演》「正信偈」

102号より好評連載中 梯 實圓

「正信偈」の講演録です。本願寺の碩学、故・梯實圓和上による親鸞聖人のみ教えの結晶ともいえる「正信偈」をやさしくご講演いただいています。梯和上の聲に接しているような臨場感にぜひふれてください。



季刊せいてん 定期購読のご案内

*本誌を毎号入手していただくために定期購読をお勧めします。

●年間購読料 2,800円(税・送料込み)

▲年4回(3・6・9・12の各月)発行

*1部からでもお求めになれます。

●1部 700円(税・送料込み)

※同じ号を一括して多部数お申し込みいただいた場合には、
部数割引させていただきます。(10部以上10%・50部以上20%)

・お申し込み・お問い合わせは↓・

本願寺出版社  0120-464-583 FAX 075-341-7753
よむよ ごわさん

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル <http://hongwanji-shuppan.com/>

編集後記

◆「おてらカメラ」が最終回となりました。元本願寺出版社カメラマンの中西康雄先生がアドバイスしてくださった、お寺を撮影する際の心構えとコツを生かして、皆さんもぜひお寺の魅力を発信してみてください。

今号より岡本健資先生に「せいてん質問箱」を担当していただきます。仏教の教えや釈尊の伝記に関する「知ってるつもり」な質問にお答えいただけます。(Y)

◆〈悪人〉伝や特集の一部で取り上げている日本の近代仏教は、昨今注目度がより高まっており、当時の文献をネットで直接読める国会図書館のデジタルライブラリもどんどん便利になってきています。いざ読んでみると非常にアクの強い言説にまずは面食らうのですが、そこを乗り越えれば、現代に直結する重要な

知見に満ちていることに気付かされます。それはまるで、最初は抵抗があるけど食べているうちにはまってしまう栄養満点の発酵食品のようです。(N)

◆総合研究所では、PowerPointを用いた講座を行っており大変好評です。それだけに、多くの方にメディア伝道に取り組んで欲しいとの思いがあり、取材記事の最後でお勧めした次第です。

法話経験のあまりない私が法話をお勧めするのには、もう一つ理由があって、伝えるために学ぶという方法が、実はとても有効な学びの方法であると最近感じているからです。法話を意識すると、教学の学びが深くなる。それによってまた法話が磨かれる。みんながこの循環に入れば、厳しい布教の現状を少しでも変えられるのでは、という希望を持っています。(D)

投稿募集

◆本誌に対するご感想やご意見、聖典講座についてのご質問など、ふるってご投稿ください。皆様からのお便りをお待ちしております。
◆あて先は、「〒600-8349 京都市下京区堀川92番地 浄土真宗本願寺派伝道第3本部 総合研究所 季刊せいてん編集室」とご明記ください。◆お送りいただきました原稿はお返しできません。◆掲載分には記念品をお送りいたします。

季刊せいてん

NO.124 平成30(2018)年9月1日発行

編集

浄土真宗本願寺派

総合研究所

〒600-8349

京都市下京区堀川92番地

発行

本願寺出版社

(浄土真宗本願寺派)

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル

本願寺門前町60番地

電話 075-371-4171